

1 派遣団員となった思いや、広島を訪れることへの抱負など。

僕は、大平中の代表として楽しみながらも広島の傷跡を5感で感じ、その感じた事を次の世代に伝えていきたいと思います。

実際に行ってみなければ、ただ感じられることは戦争はあってはならないという事ぐらいだと思います。しかし、行ってみると戦争はあってはならないのはもちろんのこと、戦争はすさまじく、戦争によっておこる人々の影響などあらゆる知識が学べます。次世代をになう僕たちにできる事はたくさんあります。この、原子爆弾による被害を風化させず伝えていくことや、もっと詳しくしらべた感想を身近な人に話してみるなど僕たちができる一歩は未来を変える事にもつながっていけると 생각합니다。

僕はそのことに重要な意味があると考えます。

2 広島平和記念資料館（平和記念公園）を見学して学んだことや考えたこと。

一日目、広島に着いてから平和記念公園と平和記念資料館にいきました。原爆ドームは写真では見たことがあるけれど本当に鉄骨がむき出しになっていました。資料館にはたくさんのものが展示されていました。原爆投下時刻で止まった時計が印象的でした。被爆した三輪車の状態は当時を物語っているようでした。爆風で折れ曲がった鉄の扉は原爆の爆風のすさまじさを感じました。白壁に残った黒い雨の跡は雨粒がたれた所がはっきり黒くなっていました。禎子さんの折鶴はとても小さく薄い紙で折ってありました。ほとんどの展示物は当時の状況がよくわかり目をつぶりたくたほどの物もたくさんありました。資料館を見学して原爆の怖さを改めて感じることができました。

3 広島市原爆死没者慰霊式及び平和祈念式に参加して学んだことや考えたこと。

私は平和祈念式に参列してたくさんのことを学びました。

一つ目は原爆を受けて、たくさんのつらい事を経験した被爆者の気持ちです。被爆した人たちは何の罪もないのに命を落としてしまったり、差別されたりして、とてもつらい思いをしたと思いました。

二つ目は、平和の尊さです。原爆で親や子どもを亡くしてしまった人たちは、自分は助かったとしても、とても大切な人を亡くしてしまってとても悲しかったと思いました。また、親を亡くしてしまった子供たちは、食事を作ってもらえなかったり、勉強を受けられなかったりととても大変だったと思いました。こうやって普通に暮らせるのは、平和が保たれているからで、改めて平和の尊さを感じました。

4 全校生徒で作成した千羽鶴を捧げてきて感じたことや考えたこと。

原爆の子の像のまわりにある千羽鶴の奉納所には世界中から多くの千羽鶴が捧げられていました。中には千羽鶴で絵を作っているものもありました。世界の人々が一羽一羽心を込めて折った鶴でした。世界の人々が団結すると素晴らしいと感じました。自分の学校でも全校生徒が一羽一羽心をこめて丁寧に折っていました。折り方が分か

る人は分からない人に教えたり全校生徒が団結して取り組んでいました。佐々木禎子さんは白血病が治ることを信じて薬の包み紙で鶴を折ったのが千羽鶴の始まりと言われています。今では病気になると千羽鶴を折ったりします。その千羽鶴と原爆が関係していると知ったときは正直驚きました。次に千羽鶴を折る機会があったらこのことを思い出しながら折りたいです。

5 被爆体験講話を聞いて学んだことや考えたこと。

私たちは、実際に被爆にあった85歳の田川康介さんからお話を聞きました。私の耳には「戦争はいけません。何の罪もない人間を、次々と殺していくのだから。」という田川さんの声が残っています。今現在、日本は平和なので、戦争の悲惨さをほとんどの人が知らないのも、被爆者としてはとても悲しいとおっしゃっていました。私は、少しでも多くの人に戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていかなくてはならないと感じました。またいくら被爆者たちが願っても消えないものは核兵器です。その多くは、自国防衛だと言われています。不安が積もる一方で、原爆で、人が炭になるや皮がとける、目の前で多くの人亡くなられていくなど、想像できない話ばかりでした。私は、戦争を実際に体験した人ではないと、本当の恐ろしさや悲しみは分からないなと感じました。

【それぞれの感想】

・僕はこの3日間で学んだ事は、①戦争の恐ろしさ②戦争の風化です。

①は、戦争によって今も苦しみながらも前を向いて歩き続けている人がいるという事が心に一番残りました。戦争は、後々に風評被害や人々に苦しみをあたえます。戦争をやってもなにひとつ良い事などはありません。ただ、世界各国は自国防衛のため戦争を行ったり核を保有したりしていかくという行為を行っているのです。

②は、戦争によって苦しめられた人々が忘れられようとしていることです。とくに、原爆はこの2013年で68年目をむかえいちじるしく風化が進んでいます。僕たちに今できる事は人々に恐ろしさを伝えていく事です。

このような体験を通して、人々に恐ろしさを伝えて、風化させないようにしたいと思います。また、つたえていく大切さがよく分かりました。

・私がこの3日間で感じたことは私達は平和慣れをしていたんだという事です。1日目の資料館の見学や3日目の講話を聞いて戦争の恐ろしさを今まで以上に感じました。2日目は平和記念式典に参加して戦争を起こしてはいけないという決意を固めることができました。これから私の周りで起こる小さな争いからでもなくしていきたいです。

・今回広島に栃木市の派遣団員として行き、たくさんの貴重な体験ができ、多くの事を学ぶことができました。戦争の悲惨さ、平和の尊さです。戦争がどんなにむごく、

悲惨なものか、学ぶことができました。また今、当然のようにある平和はこれからも守っていかなければと感じました。そして、今回学んだことをできるだけたくさんの人に伝えたいです。

・この3日間の学習を通して思ったことは、戦争は無駄で不要、平和が一番、です。この学習で改めて戦争はいけないことだと思いました。戦争は人を殺すだけで誰も喜ばない。今でも中東では紛争が行われています。早く紛争が無くなり世界が平和になってほしいです。この学習で学んだ事をまとめて学校祭で発表します。若い人々にたくさんこの学習で学んだことをどんどん伝えていきたいです。

・私は、広島を訪れて、3日間いろんなところへ行って見学をしたり、聞いたりしましたが、自分は今どれだけ平和な暮らしをしているのかということに、改めて気づきました。無事に栃木に帰ってこれて、みんなとも仲良くなれ、笑い合えました。私は、笑顔こそ平和の証だと思います。これからも、平和が続くことを願っています。

以上